

芸能

仙台フィルと共演 新アルバム

再生への祈り 旋律に込め

バイオリニストの宮本笑里が、五枚目のアルバム「renaissance (ルネサンス)」で、仙台フィルハーモニー管弦楽団と共演した。東日本大震災後に被災地を訪れ「自分に何ができるのか」と自問自答した答えがこの共演だった。復興への祈りと願いを込めた旋律を紡いだ。

「聴いてくださる方が少しでも笑顔になって、このアルバムから温かみを感じていただけたら。東日本大震災の復興に向けて再生、再建の意味を込めて、このタイトルにしました」

昨年四月に東京・サントリーホールで開催された「東北応援チャリティコンサート」で仙台フィルの演奏を客席で聴いた宮本。「思いが一つになった情熱のこもった演奏に胸を打たれました。自分の中で電気が走ったようでした。ぜひ一緒に音楽を作りたいと思いました」

アルバムには「上を向いて歩こう」「ふるさと」「千の風になつて」「ボレロ」「アベ・マリア」など十一曲を収録。「仙台フィルのみなさんは一人一人が熱いハートの持ち主。音楽を愛し触れ合え

被災者と触れ合い 新曲生む

る幸せをみんなを感じながら演奏しました」

新曲も一曲収めた。仙台フィルのコンサートマスター、神谷未穂から「オリジナル作品を」とリクエストを受け、GLAYのTAKUROとの共作による「光」を作曲した。

キャスターを務めていた日本テレビ「ニュースZERO」の取材で被災地の宮城県石巻市を訪れ、被災者と触れ合う中で生まれた曲だ。美しいメロディーの中に温かみを感じさせる演奏が印象的だ。

「取材でうかがったみなさんのことは忘れられない。私も何かしたい。自分の音を届けたいと強く思いながら弾きました」

二〇〇七年にCDデビューして五周年となる。「五年間はあっといふ間。本当に充実した日々を過ごしました。でも思えばデビューのころから変わっていないんです。少しでも多くの方にクラシックを聴いていただきたい。これからはもっとエンジンかけないと」と充実の表情。さまざまな経験を重ね、十年目に向けて新たな一歩を踏み出した。

(山崎美穂)



5枚目のアルバムを出した宮本笑里(名倉屋市で)

「その他」も念頭に聴く面白さ

音楽

前半四十分ほどを作曲家の諸井誠氏による講演に費やし、休憩をはさみ後半

で、ベートーベンのバイオリン・ソナタ三曲(第6〜第8番)が一気に演奏されるといふ「レクチャー・コンサート」。当日はシリーズ第三回。講演がめつばう面白く、話題はベートーベン作品の分析から当時のドイツ語圏の文芸思潮や政治、フランス後期ロマン派の作曲家フランクとの関係性にまで及ぶ。ただ情報量が膨大で、しかも早口、時おり不思議なジョークまで飛び出すので咀嚼するだけでも大変だった。

佐藤まどか(バイオリン)、安田正昭(ピアノ)による後半部は第

「ベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタ革命」

● 4月28日 上野学園 石橋メモリアルホール



佐藤まどか(バイオリン)と安田正昭(ピアノ)

6、8、7番の順に曲順を変更。第6番では音程にやや不安感のあった

バイオリンが、第8番の後半楽章あたりから精密さを増し、そして熱を帯びていき、最後の第7番ハ短調で結実。曲想に合致した緊迫感の強い音楽を聴くことができた。佐藤はそ

それぞれのソナタのアーティシオなど緩徐楽章がうまく、低めの音を担当するG線、D線(4番線と3番線)の響かせ方など、他のバイオリニストにない独特の味わいがある。安田のピアノは、突然走りだしそうになるバイオリンに同じ表情で付いていき、主題がピアノ主導の時は思い切って歌う。その「出たり引っ込んだり」の呼吸など、うまいものだ。

講演後の演奏というところもあるにせよ、音楽を音楽だけでなく「その他のもの」も念頭に置いて聴く面白さを体験した。バイオリンとピアノが、有名ではないが実力ある中堅音楽家による、自分たちでしっかり自己主張するものだったのが何より良かった。

(渡辺和彦=音楽評論家)

ピアニスト 久元祐子



「日本には熱狂的なモーツァルトのファンが多くて、私の方が勉強させられることもたくさんあります」と話す久元祐子(東京都港区)

音でモーツァルトの伝記を

若いころから才能を発揮し、神童と呼ばれた作曲家モーツァルト。ピアニストの久元祐子は「もちろん、素晴らしい才能に恵まれたわけですが、それまでの作曲家から受け継いだものもたくさんあります」と話す。

「音で伝記を表現したい」とモーツァルトが受けた影響や、そこから作り上げた独自の音楽が伝わるよう選曲したアルバムの制作に取り組んでいる。シリーズ二作目となる最新作は「学習するモーツァルト」(コジマ録音)だ。

若きモーツァルトが強く影響を受けたのが、J・S・バッハの息子J・C・バッハ。新作は、モーツァルトとJ・C・バッハの作品を弾き比べる。「なめらかなバッハの音に対し、モーツァルト作品の持つ多面性が際立ちます」

比較的少ない音符で、人間のさまざまな感情を自在に表現するモーツァルト。「悲しみの表情をわずかに音で華やかに変えてしまふ力は、いつの時代も人々の心をとらえて離さないでしょう」

◆イェルク・デームスピアノリサイタル 19日午後2時、東京・上野の東京文化会館小ホール。ベートーベン「ソナタ第31番」、ドビュッシー「月の光」「葉末を渡る鐘の音」、フランク「前奏曲、アリアと終曲」ほか。一般5500円、学生3500円。③03・3943・6667

◆江澤聖子ピアノリサイタル 20日午後2時、東京・千駄ヶ谷の津田ホール。ベートーベン「ソナタ第21番」「ワルトシュタイン」、ブラームス「ヘンデルの主題による変奏曲とフーガ」ほか。全自由席。一般3500円、学生2500円。③03・3561・5012=新演奏家協会。